

マダム コンパンワ

CLUB

コトブキ

トア・ロードのセスター街のもう一つ南の通りを南に入った浜側にクラブ・コトブキがある。

主人の平野紀子さんは、明るいう神戸っ子で、最初から英国スタイルの店を建てたいと願っていたということである。勿論英国風で建てられた店というのは神戸には少ないので一つの持味になっているお店の中もゆったりとした構えであるほど、調度も純欧風である。

とまり木の腰掛けも見事だし、カウンスターも、ころあいである。

飲物は洋酒がよく、注文すれば日本酒も用意しているということだからどんな手合といっても慌てることはない。

客筋も神戸の一流どころは殆ど馴染らしい、とにかく人気がある。かなり勘定のはっきりしている、文化人の間でも評判がよくて、果の一つであることはこの店の行き方がうかがわれる。

平野さんはマダム然とした貫禄こそないが、和服のよく似合う暖かい感じの美人で、愛嬌と、素直な可憐さがい。

自分で築いて磨き上げて行こうと云う意欲がこの店全体を一層まとまりのよいものにしていて、ホステスたちも感じがよい。

神戸を訪ねて来た客を安心して案内できる店として奨めていいだろう。

(K)



きものさろん
服飾細貨
きものと細貨
新橋店
東京

西店
東店
神戸

あんがら屋

神戸・西店 TEL ③ 8836
東店 ③ 0629
東京・新橋店 (571) 0807



ZENITH
世界最高級腕時計

ゼニット

もっとも豪華な
もっとも気品のある
もっとも正確な

ZENITH 美 甲
特約代理店

MOTOMACHI-3
TEL (3) 1798

'62
All New Far Full Fashion
* 毛皮展示会



と き / 10月18.19.20日・10時～6時
ところ / 農業会館5階大ホール
(国鉄・阪急三宮西1丁生田筋上る生田神社西山側)
入場は自由でございます。

毛皮の店

ウエダ

元町2丁目 ③ 0686



マルゼン

神戸市生田区三宮町1丁目(生田筋)
TEL. ③ 0212・5454

世界の舞台に夢をかける

アイ・ジョージ

アイ・ジョージ (歌手)

鴨居 羊子 (下着デザイナー)



この対談は、神戸労音からの贈り物でもある。9月18日から三日間神戸労音に招かれて歌った、アイ・ジョージは司会に鴨居羊子を選んで全く型破りのリサイタルを構成フアンの期待に応えて、このある舞台をくりひらげた。

アイ・ジョージは「最高に恵まれたスタッフの善意が今日の舞台になったのだ……」というのだが鴨居羊子は独創性を生かして下着ファッションを呼びかけたデザイナー、大阪で新阪急ビルに鴨居羊子の店を開いている。もちろん、関西ののれんである、根性のある女性——苦勞人だけにアイ・ジョージとはうまがある。

構えないで歌うジョージ

鴨居 「ジョージさん神戸はよく来ていて馴染深いですよ」

ジョージ 「馴染深いという程の

ことはないけど、僕がアイ・ジョージになってから、ジャズ喫茶によくきたね」

鴨居 「ほう、そんなもの、いつ頃のこと」

ジョージ 「三年程前かな、それより前にね、来たことあるんだがそのとき、ちよつと、もめてね。ここはアカンということになったんや」

鴨居 「買い物なんかに出掛ける時間があつた」

ジョージ 「あまりないナ、それでも昨日はちよつとあちらこちら廻りましたよ」

鴨居 「今日は舞台で疲れましたね、ジョージさんはさっきも云つてらしたけどエライねえ、舞台に出る前だといって、何んてことないといつてたけど、ごく、普通な気持ちで舞台で歌うというのね、その考え方もいいと思うけれどね」

ジョージ 「いや、そんなことはないです。そら、鴨居さんが善意で云うて呉れるからや、と思う、僕そら一番アカンと思うねん、ええときはええねんけどな、アカンときはやつぱり、アカン」

鴨居 「ジョージさんのど根性いうかだね、根強さというものを感じるんだけれどね」

ジョージ 「でも、自分のあり方としてね、あの時もいいましたがあまり気をつかわないようにしているという意味なんで、寝起で歌うたらアカンとか、喉はウガイをして大切にせなアカンとか云うことは判つてゐるんやけど、あまり神経質に考えない、構えないでね普通でありたい、普通に楽しい歌をうたうんだと云うことなんですわ」

鴨居 「構えないという話は、面白いね、私も芸能人でなくてよかったと思います。私にとっては、舞台は生れて始めてでしょう」

ジョージさんが好きだからやつて見ようと思つて司会してみたんだけど、とてもこんな死にそうなんやれませんか」

(ジョージ神妙にただ、どうも)

鴨居 「だから、構えないで何事も出来るといふような鍛練は立派ですね、舞台でも態度など、ぜんぜん喰われますね」

ジョージ 「そんなあんまり判らんけど、僕こう思うんやけど、人間つてね感情の動物だと云うけど実際つてあまりないと思うんですそれに、大舞台に立つて見てやはり、いい歌をうたうという事それが総てなんで、スウーとした気持ちでやるんです。それを観ていらつしやる方で受けて感情が生れるように思うんだけど……」

鴨居 「ジョージさんの舞台構成での考えなんかは」

ジョージ 「いろいろ計算してはやつてゐるんですけどね、舞台を次第に盛り上げていつて最後に大ヒット曲を歌うというのがいままでのやり方なんですが、私はそうじゃあないんで、ジョーとして固まったなかで流れを作るそして最後はやはり、すんと落すという考え方で、スウーと自然に満腹になるように思つてゐるんです。その点周りの人達がいいですから、僕はラッキーですよ。日本ではあり得ないようなことが、ほんの一部でも実現されるということは嬉しいことです。だから、僕はカネーギ・ホールで日本の素晴らしい歌をうたつて見たいというよう

表紙のことば

帆船のメモ

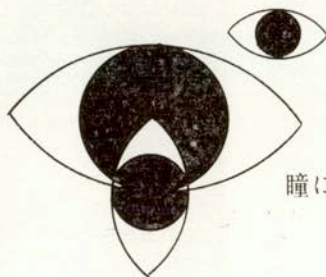
私が青年の頃、ある日、榎井一夫が荷を担いだ駄菓子屋を連れてやつて来た。この駄菓子屋は船乗りだった。その頃の船はほとんど帆船であつた。あの細いしなやかなスタイルの帆船で遠洋を航海していた。こんな瀟灑な船が青海原を帆を張つて進むのかと若い私達を夢中にさせた。

備われ水夫だった彼は雄弁に海を語つたーシスコでの刃物三昧に及んだ水夫達の血斗、荒海に氷山に激突して大破して難船した話など帆船の一本、本の柱、網を英語で喋る彼に魅せられ、私たちはそのスベルを夢中で憶えた。帆船にはそんな追憶がある。この絵は、子供のオモチャのプラ・モデルなんだが、そのモデルの解説が英語で書かれていたので無性に懐かしくなつてメモのつもりで書いた。欧州に行くのと立派な帆船のモデルが居間に置かれてゐる。ロンドンで一軒だけそんな置物を売っている店があると聞いたので渡英した時、捜したがわからないまゝに帰つて来た。



ロマンを呼ぶ
灘の生一本!

清酒
大黒正宗



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL(22)8161・8361



世界の洋酒の店

A
B
U
ハ
チ

元町二丁目
TEL 2798



山小屋

三宮生田新道仲通

TEL 3-1811

な夢も持てるんですね、周りの人が本当に善意と好意の上にキチツとやってくれるんですね。僕はラッキーだなあと思うし、こんなええことあるかなあと思うーだからそこには怒が出る。もう一つ次に行こうと思ってギヤア・ギヤア云うんですよ。しかし、これが前向きの姿勢なんだと思いますね、だから、舞台に出る前に喧嘩



鴨居羊子とアイ・ジョージ

して、舞台が終わったら、また喧嘩なんです、僕はそれがいいと思うんだーああ、あれもよかった、これもよかったーじゃあ、いい仕事は出来ないだろうなツマランですよ」

鴨居 「あなたの舞台では、ほかの人にはないエネルギーな感じが出ていますよ」

ジョージ 「エネルギーというの

はどんなタレントでも皆同じだと思っんです。それをどう出すかと云うことでですね、パツと、直接的に衝動を持って行くと、皆んなのエネルギーに感じる訳ねーペラフオンテだってそうでしょう。

ほんとにそこにあるものとしてバアッーと持ち込むでしょう。あの間は演技ですねそれと、感情の盛り込みですね。だから素晴らしいんでねびっくりするんですよ」

アイ・ジョージのユーモア

鴨居 「ジョージさんは永いところは大阪・東京？」

ジョージ 「ちょうど半分はんですよ、大阪に半分、東京半分ですわ大阪にあれば大阪に従たがう、大阪のバンドの人と話しててね、
「そうなんだよ」「君、どうしたの」「なんか云うと『何云うてんねや、ええ格好すな』いわれますわ。でないと一緒に遊べないしね」

鴨居 「舞台でジョージさんに質問するでしょう、あの場合、質問内容を予め打合せない方が素晴らしい答が出て来るんですよ、その素適な答が期待できるんですよ」

ジョージ 「鴨居さんがいつも質問を変えてくれるので新鮮でいいと思います。次は何を言うて来るかなあという気持ですよ」

鴨居 「そうかなあー私はいつも答が新鮮でいいな、うまいなあと感じているんですよ、ああいう内容とか言葉のゴキヤブラリーの豊富さというものは、持ってるものなんですよ、持ってるんですよ」

ジョージ 「僕は何にも知らんよ」



ひんくこーなー

なにも「恐妻家」は現代だけの話ではないようです。昔から奥さんのことを「山の神」と呼んで、恐れやまっていたことを考えれば、現代などより、もつと「こわい」存在だったのかもわかりません。上州名物はからっ風とカガア天下といいますが「風の神」と対等の「神格」をもっていたものと見えます。

ところが「山の神」ということばの起りは「神」ではなく「上」だといふ人もあります。なぜだと聞きますと「いろはにほへ」とをいってごらんときた。……ならむういのおく、やまけふこえて……それ「おく」(奥)は「やま」の上にあるではないか。なるほどね。

ところで江戸時代に吉原の遊女のことを「よね」といったそうです「俚言集覧」という本に「よね」は「夜寝」と書いて「ヨネは米にあらず、宿(よね)の意なり」と断っています。また「世根」と書いたり「妖姉」と書いたりする説もありです。おもしろいものはその語源で、これにも「いろは」が引っぱり出されています。つまり「よたれそつね」の初の「よ」と最後の「ね」を結びつけて「たれそつ」の四字をはさんでいるというわけですね。シジとはなんぞや。一度辞書で睨(しじ)という漢字を引いてみてください。彼女がいったい何をはさんでいるか、おなぐさみ。

(T)

鴨居 「私がきいたなかでも一番うまい、例えば『コレラが台湾から来のはどう云う経路で来るか』といったら『バナナに乗って来る』と答えるんですよ、『もう一度生れて来たら何になる』ときけば『そんなことはあり得ない』『若しあったら』やはり、歌手になる、同じことを二度やればよりよいだろう」と面白い答が出るんですよ、そんな答えの端ばしにね、ジョージさんの人生哲学がある訳で、しみみりとしたステキなニュアンスがあるです」

ジョージ 「ああー、皆さんこんなに善意があるんですよ、だからジョージは生きて行けるんだ」

鴨居 「そうじゃやないんです、これが他の芸能人だったら、何か計算したユーモアな答を考える。ジョージはそうでない、自然にユーモアが生れる、そういう意味では、ほんとうの演技者だと思っ、生活そのものが演技であるとするれば最高の演技者である訳ですよ」

ジョージ 「それは鴨居さんが上手に引出すんですよ、だいたいね鴨居さんに質問されていると、時どき、ゾォーとすることがあるんだ、訳の判らんことを質問して来るでしよう、僕はなにも用意しないで答えて行く、ところが質問が7問ぐらいになって来ると『あつこれ何を言ってるんやろ』『ほんまに人をばらばらにする』『とギョッとするんですね、関係ない事で僕は釣られてあばかれてるんですよ」

鴨居 「無意味な質問をした方が味のある答が出るんですよー『うどんを食べるとき油揚げを一口に食べるか、何度にも食べるか』

『食いちぎり、食いちぎり何回もたべる』『何故そうするか』『一口に食べたら後がさびしい』あたりまえのことだが、そこが面白いですね。ジョージさんの映画『太陽の子』はどうでした」

ジョージ 「あれは私の半生記でね。えらいヒットしましたわ」

鴨居 「女性自身に『パン屋の職長さん』の話が出てたけどあれよかったね、後の話がききたいわ、どんな感じだった」

ジョージ 「パン屋の職長さんねあれにぶんなぐられたことあるん



エネルギーに歌いまくるジョージ

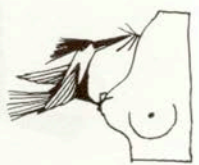
ですわ、僕は頭がいいでしょう？ときどき頭に来るんだ、あるときにね、金輪際もって行けんようなところにジョー・ケーキを配達せいですわ、職長さんはそんな細かいとこまで判らん訳ですわそれでね、頭えきちゃってエイト自転車ごと放り出して帰って来ましてね。パンパンーヤラレましたわ」(笑)

鴨居 「それ、あたりまえやわ」

ジョージ 「だけど、今は懐しい思い出やな」

(「みその」にて)

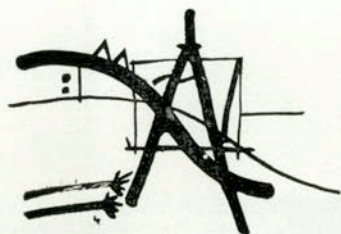
びんくこーなー



今でも英語は大流行ですが、明治時代にもそんなことがあります。ちよっと次のような会話を聞いてください。

「この袖は何のリリースン(関係)を持っておるのですか。何のためにこのような丈にも余るものを釣るしておるのですか。かように日に月にリフアイン(進歩)してデベロップ(発達)して行くジャパニスタイルとして、まだ十七八世紀ごろの陳腐なドレレス(服装)をばいりつまで甘んじて着ていることが、ノンセンス、ノンセンス(落第)よ」「フルマーク(満点)だわ」「あなたはいつレタシ(帰省)なさるの」「一日遊びましてよ」「だって私明日スタートル(そうばう)ねえ。じゃ待ってらっしゃるの、ペトサン(婚約者)がね、どころ箱根？」「サイコロジ(心理学)の点も怪しいんですよ、私、行けば浅間よ。そして噴火口へ投身でもするわ」これは山岸荷葉と小杉天外の小説から引用したものです、文明開化、欧米心酔の世相が目に見えるようです。明治末に「倒れし戦友抱き起し耳に口あて名を呼ばば……」というラップ節がはやりましたが、以下は英語入りのその替え歌です。「眠れるワイフを呼び起こし、頬に目を開き、ホワイトベーパーはホエヤイズイット……」それから先はどうなつたかって？アイル・ドント・ノー」(T)

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



額 製 積 末

三宮・大丸北
トア・ロード
③1309・6234

男子洋品の店

神戸屋

元町2・TEL 32589



秋のお買物は
ハイ・センスの神戸で
楽しいくらしは
神戸の
トップ・ショップから





Toilet articles & accessory 化粧品 絹屋
 アクセサリー
 西店・三宮柳屋 3-5778
 本店・甲南本通 85-0250

観音像塑土
 山西省大同
 〈宗時代〉
 播新
 ③ 神戸市元町三丁目
 2
 5
 1
 6




フラッシュ菓子
 ドンク



芸がいむ夢
 コスチューム
 アクセサリーの店
 神戸店・トアロード ③ 二二一九三
 大阪店・心斎橋ロビー(211)一〇四四



ハイセンスの紳士服で
最高のオシャレを

元町4丁目

三恵洋服店

TEL ④ 7290

YE AULD SHIRT SHOPPE



よろず御親衣仕立處

神戸シャツ

神戸大丸前 TEL ③ 2168

秋



東京洋品の店

千秋堂

元町4丁目④6959

クラシック調の
スポーツウェアー
ニットウェアー



みんなに贈って喜ばれる

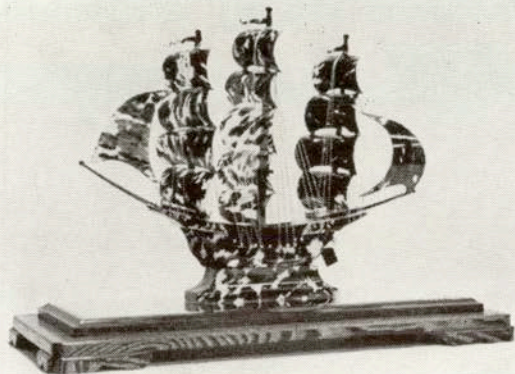
風味豊かなカステラ!

<元町6丁目>

長崎堂本店

本店7-4402元町4-4130

神戸新聞会館秀品店・阪急



センスあふれる

べっ甲の専門店

元町一丁目

太田鼈甲店

TEL ③ 6195

新しいセンス、フランス調の
ヘヤースタイル

美容室

あきら

西野 明

御電話の御予約いたしております

三宮本通り TEL ③4461・6458

KOBE

SUGIYA

ハンカチと下着の店

トア・ロード TEL ③3436



ロマンスの秋に

スギヤの

プレゼント...



高級紳士服専門店

神戸テーラー

オーダーメイド・イメージ

オーダー・レディメイド

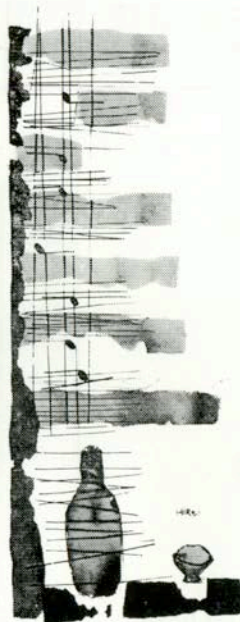
生田区北長狭通2

(省線高架通50) ③2817

ざんげ話

陳 舜 臣

え・松 本 宏



今晚も、ぼくは山長さんの店でお酒をのんだ。あそこでは、あまりたくさんのもないつもりでいる。しかし山長さんは承知しない。やいのやいのとすすめられると、のまないと思えるような気がして、ついのみす。お酒をすすんで、ほんとうにいけないことだ。

なぜ、ぼくが山長さんの店で、ただ酒をのむかという話を、ここに書いてみたい。それは、とりもなおさず、ぼくのざんげ話になるのである。

ぼくはなんべん金を払おうとしたかわからない。が、山長さんはガンとしてうけつけないのだ。金を受取らないと、もう来ないぞ、と言ったことがある。すると山長さんは、「あんたは、そない不人情なんか?」

とつめよった。なんとも致し方がない。

ゲンさんはとくに東京へ転勤になった。だから彼はもう山長さんの店でただ酒をのまなくてすむ。いまは、ぼく一人だけが、この辛い任務を支持っているわけだ。

四年まえ、ゲンさんがまだ神戸にいたころ、ぼくは彼とコンビで、よくのんだものである。山長さんの店でのむのは、ツケであった。ご多分にもれず、のむときはいいが、払いが大へんだった。ある時期、だいぶ溜って、進退きわまってしまった。もちろん、踏み倒そうなんてさもし根性はなかった。ただ当座の支払能力が不足して、ボーナスまでのぼしてやろうとしたのだ。それにしても、ボーナスはだいぶさきなので、それまでのあいだいい顔をされないうちでもない。お酒をのむときは、誰しも気持よくのみたいものである。

元町のとある喫茶店で、ぼくはゲンさんと密議をこらした。

「なんとかなれへんやろかり当座しのぎでええんやけど」これが、ぼくらの解決せんとする課題だった。あらゆる作戦は、孫子の教えをまづまでもなく、敵を知ることが肝心である。ぼくらは山長さんを研究した。

山長さんは古文書蒐集という、きわめて品のよい趣味をもっている。さっぱりした気性の、じつにいいおやじであるが、こと古文書にかんすると、目の色がかわって思わぬ偏執ぶりを発揮したものだ。

金を払わずに、しかもいい顔でのむには、なにか抵当を入れなければならぬ。たとえば、ぼくらは腕時計をもっていた。しかし、山長さんはそんな物は受取らないだろう。

「そんなこと、やめといってもらいまっさ」

と言うにきまっている。

「やっぱり古文書がええな」

とぼくは言った。古文書を抵当にするのが一ばんいいことはわかっていいる。ところが、ゲンさんもぼくも、古文書などには縁がないのだ。

「偽造しようか……」

と、ゲンさんは思いつめたように、言った。しかし、ぼくらのような素人に、古文書の偽造はできっこない。たとえ偽造しても、相手は本格的なマニアだから、すぐに見破ってしまうにきまっている。それでなくても、偽造という言葉は、犯罪臭がして、いやなものだ。

「偽造はあかん、」ぼくは断乎として、言った。

「刑法に触れるがな」「そこは、うまいことやったらええ」ゲンさんは自信ありげに答えた。「ぼくらはなにも、正式にそれを抵当にするんやない。ただちょっと預かってくれ、と言うだけや。ポータスが出たら、支払いをすませて、それをとり戻す。……なんにもわるいことあらへん。要するに、急場しのぎや」

「そやけど、古文書はあかんで。おっさん、よう知っ

とるから」

ぼくらは、さらに密議をこらした。追いつめられるといい知恵がうかぶものだ。

「おっさんにわからんもんがある」

ゲンさんは、ハッタと膝をたたいて、そう言った。山長さんにわからない古文書とは、何か？ゲンさんの説明によれば、それは楽譜であつた。おっさんは、オタマジャクシが読めないのだ。ゲンさんの亡くなった叔父が作曲家で、五線譜になにやら書いたものが、家にいっぱいあるという。

翌日、山長さんの店で酒をのみながら、ぼくらはつぎのような会話をかわした。

「おれ、アパートに移ろうと思とるんやけど、荷物を整理せんならん」

「そやけど、ゲンさん、アパートは空果に弱いで。あれもって行かれたら、どないすんねん？」

「そやな……どないしよあれは古文書の種類やけどこのあいだ八十万の値をつけたやつがおつた。叔父の形見やさかい、おれ、なんぼ八十万でも手離す気ないんや」

古文書という言葉をしきくと、山長さんの目がキラと光った。そして、言った。

「古文書ちゃうと、どんなもんや？」

「おっさんの集めてるようなやつとはちがうんや」とゲンさんは言った。「字とちごうて、楽譜や。ベートベンの「運命」の下書きで、もちろん、ベートベンの肉筆や」

「ほほう……」

それから、ぼくとゲンさんは、ベートベン礼讃をやらかし、「運命交響楽」について論じ、その草稿楽譜のはかり知れない価値に言及した。最後に、ゲンさんは、その楽譜が新しいアパートの部屋に、適当な置場所のない悩みを、ため息とともに洩らした。

「なんやったら、わたいのとこに預かったるか？」と



山長さんは言った。「古文書を入れるスチールのケースがあるさかい」

これは待ちに待った発言である。すぐにとびついてはいけない。ゲンさんは、適当に迷ったり、渋ってみせたりしたのち、

「そやな、よう考えたら、万一のことがあった時……」
ベートーベンのインチキ楽譜は、こうして、山長さんの家におさまった。八十万の値がついた代物である。厳密な意味の抵当ではないが、それは勘定をボーンナスまでのばしても、ぼくらが気がねせずのめる、初期の目的をはたしてくれるのである。

山長さんの家は、店から二丁ばかり離れたところにある。彼は結婚後十年目で、はじめて子供が生まれた。このころでは、古文書のほかに、ベビー自慢が加わった。あの晩も、はじめは古文書自慢からはじまった。なんでも、京都の大学のえらい先生が、山長さんの古文書を見せてほしいと、依頼があったそうだ。

「うちにあるやつ、今朝みんな京都へもって行っったんや。なまに、わたいが目を通してあるんやから、にせ物なんかおますかいな」

ぼくもゲンサンも、ひやりとした。

「あのベートーベンも持って行っったんかいな？」とゲンさんはたずねた。

「いや、あれだけは残しときましたわいな。専門がちがうんやから」山長さんは答えた。

ぼくらは、ホツとした。

ちようどそこへ、山長さんのヨメさんが赤ん坊をかかえてはいってきた。

「これから、お風呂へ行ってきますねん」

と山長夫人は言った。店は家から風呂屋への途中にあるので、子煩悩の山長さんに、赤ん坊を見せにきたらしい。山長さんはヨメさんの胸に抱かれている赤ん坊を見て。

「なんや、寝とるやないか」

「ええ、よう寝るわ、この子」

「風邪ひけへんか？寝てる子、夜なかに連れ出したりなんかして……」

「お風呂屋さんへ行くぐらいやないの。大丈夫でつしやる……」

山長夫人は答えたが、そう言われると、やっぱり不安そうな面もちになっていた。

山長夫人が店から出て行ったあとも、ぼくらは、まだしばらくのんだ。帰ろうとした頃、急にあたりがさわがしくなった。と、一人の男が店へとび込んで、大声で喚いた。

「山長はん、あんたとこの隣りが火事やで、あつというまに、ものすごい火や。ベニヤ板やから、あんたとこもあかんで！」

山長さんは、「おうっ！」と叫ぶような声をあげて店をとび出した。ぼくらもそのあとにつづいた。

やっと消防車のサイレンがきこえはじめた。

ひた走りに走って、現場に着いてみると、火はすでに山長さんの家に燃え移っていた。火のまわりが早く、かけつけた消防車はポンプの準備にとりかかったばかりである。

山長さんは体をぶつけて表戸を破った。

「危いノやめときノ」と、ぼくもゲンさんもどなった

「小母はんも赤ちゃん風呂へ行ってるから、大丈夫や。古文書かて、京都へ行ってるやないか」

「ベーターベンやノ」

と、一と声残して、山長さんのすがたは、燃えさかる家のなかに消えた。

「えらいこっちゃノ」

ベーターベンだって？ぼくとゲンさんは、世にも哀れな顔を見合わせた。

「ぼんやりせんと、早よ山長さんをひきずり出さんとあかん」

そうだ。ぼくらのインチキ・ベーターベンのおかげで

山長さんが焼け死にでもしたら、ぼくらは切腹してお詫びしなければならぬ。

「よしノ」と叫んで、ぼくは敢然と突入の態勢をとった。と、そのとき、山長さんが猛火をくぐって、かけ出してきた。

……山長さんは赤ん坊を抱えていた。

「おい、邪魔になる、そこ退（ど）けノ」

消防員がどなったので、ぼくらはあとへさがった。

「ゲンさん、かんにんして、ベーターベンはおかん、赤ん坊が居よったんや。……この火やったら、スチールのケースもおかんわ」

山長さんはポロポロと涙をながして言った。

こんな時、あれはインチキでしと言えらるだろうか？猛火を背景にしたこの壮絶な雰囲気なかで、そんなふざけたことが口に出せようか？ぼくらは口を噤んだ。

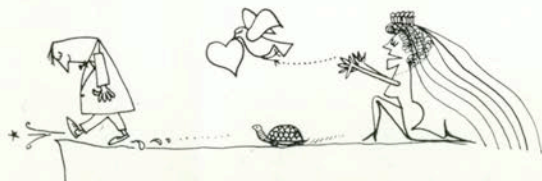
山長夫人は赤ん坊を連れて風呂へ行くつもりだったが風邪をひくかもしれないと主人に言われたので、思い直して、赤ん坊を家に残して行ったのだ。山長さんがベーターベンを取りに行かなければ、赤ん坊の命はなかったわけである。つまり、ぼくらがインチキをしなければ、八十万はする薬譜を焼いたので、山長さんはその分をぼくらにただでのませるつもりらしい。

あれから四年たって、山長さんの赤ん坊は、もう幼稚園へ通っている。

三日に一度、三百円平均のんだとして、年に三万円最初の一年はゲンさんがまだ神戸にいたから二人前である。この四年間合計十五万円ほどのんだことになる。あと六十五万円のまねばならない。それには、二十年以上かかる。……あのときの赤ん坊が、嫁さんをもろうころだろう。

(この項おわり)

編集後記



☆秋といえはお祭りです。港、神戸では、自慢の「みなと祭」が行われます。最近「神戸のみなと祭をもっと楽しいものにしよう」という意見が多いようです。市民の祭典がどんなものになるか楽しみです。

☆外国のキャプテン・マネージャーなどの港への注文や、神戸の印象などをまとめて見ました。

☆今月の表紙は小磯良平氏です。当分の間「神戸っ子色」をだそうというので小磯先生に表紙をお願いいたしました。愛読者の皆さんも是非ご声援ください。

☆新しい企画で女流作家、第一人者、岡部伊都子氏にご登場いただきました。「神戸には素適なお嬢さんが沢山いらっしやるのでこの様な機会には是非ご紹介したい」

花時計

複製礼賛

松井高男



ことしの初めに開かれたフランス美術展では、壁面を飾っている絵の複製を同時に売っていたが、これが飛ぶように売れていた。なかでもモジリアニのものがよく売れて、何度も増刷したという。なぜモジリアニが売れたかは別として、この学生たちで混雑する売り場の風景は、私にとつてたいへん感動的なものであった。なかには「なんだ複製なんか」とひそかに思った人もいたことだろう。むろんホンモノのあとでは、感銘も薄いに違いない。だが、飛ぶように売れる様子は、あたかも貴重な文化のタネがばらまかれていたといった感じであった。おそらくそれを買って帰った学生たちの勉

強部屋には、いまでもその複製が飾られていることだろう。一枚の絵の「感動」を、いかに大切にするか、これが基本的な美術への対し方だと思ふ。たとえ素朴なものであったにしろ、その感動を温めようと複製を買った学生がいたしたら、金に飽かせてかき集めたホンモノを死蔵している人にくらべて、はるかに芸術を感受しているといえるだろう。豊かな精神生活への足がかりがこのあたりにある。この二十日から松方コレクション展が白鶴美術館で開かれる。複製でつちかわれた絵画への関心が、この貴重な名画の数々の前で新たな開眼をもたらしことだろう

月刊「神戸っ子」案内

☆月刊「神戸っ子」を毎月御購読下さいます方、神戸を離れているお友達にプレゼントなさりたい方は編集室宛にお申込下さい。6ヶ月分・5000円(送料共)


☆誌上紹介の各神戸の銘店にはお客様へのサービス品として「神戸っ子」がおかれています。

☆「神戸っ子」をお求めのさいは左記の本屋さんでどうぞ。

海文堂・元町3丁目
漢口堂・京町筋角
日東館・大丸前
流泉書房・センター街
合田書店・大正筋商店街

発行に色々と
 お世話いただいた方々
 安重正 石成重夫 櫻井正明 牛嶋一朗 岡崎真一郎 小曾根伊都子 大曾根真都子 金井元ツム 川西英彦 嘉納正一 小島芳良 小太夫平 矢保太 後藤素二 古林孝之 阪本喜米 白崎二 塩川勝二 塩川勝二 田村孝之 田中健一 田中健一 永井達郎 直木太郎 中富方太 福高虎夫 古川高夫 松井高夫 宮地高夫 百崎高夫 森崎高夫 若杉高夫 山崎高夫 神戸青年会議所

- 本誌広告より広告主へ直接御注文やお問合せの際は、神戸っ子、広告による旨お書き添え下さい。
- 広告主の住所不明な時は、神戸っ子、編集室にお問合せ下さい。お取次いたします。
- 「神戸っ子」には広告掲載希望の面々は、神戸っ子、東京部宿御願下さい。神戸っ子、編集室

A black and white portrait of a woman with a pearl earring and a headscarf. The woman is looking slightly to the side with a gentle expression. She is wearing a light-colored headscarf that is draped over her head. A large, ornate pearl earring is visible on her left ear. The background is dark and textured.

Mikimoto Pearls

ミキモトパールは
優雅な宝石です
お母様からお嬢様へ
そしてまたお子様へ
何代にもわたって
愛される美しい輝き
その価値は
永遠にかわりありません



御木本真珠店

神戸店 三宮・神戸国際会館 Tel. (22) 62

大阪店 堂島・新大ビル Tel. (361) 0220

世界で絶賛をあげたパナソニック!

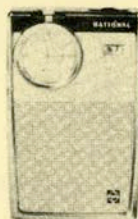


RT-V-111 1号

8石2バンド T-801D型
正 価 11,900円
月賦定価 12,500円

RT-V-111 2号

時計付 7石 T-98型
正 価 10,500円
月賦定価 11,000円



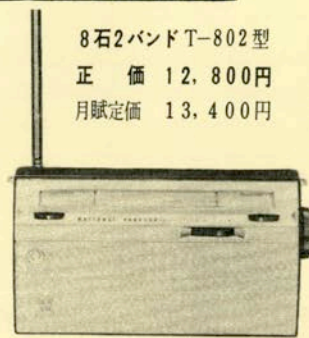
RT-V-111 3号

6石超小型 T-601型
正 価 6,300円
月賦定価 6,600円



RT-V-111 4号

8石2バンド T-802型
正 価 12,800円
月賦定価 13,400円



● 日本でも空前の人気

あらゆる国の最高級品が集まる世界最大の市場、アメリカで選ばぬかれたトランジスタ・ラジオ「パナソニック」は日本でも、すでに「ナショナル・パナソニック」として発売・1号から4号まで新機種が登場するごとに、人気は高まる一方。アメリカにおとらない売れっ子ぶりを見せています。

● 偶然には生まれなかった

音響製品を造って40年、世界的な電子技術と設備をもつナショナルでは、ここ数年、ラジオの年産 200万台を越え、世界一の記録を保持しております。国際的な人気を勝ち得た「ナショナル・パナソニック」も、この力づよい総合技術に支えられて、完成されたのです。



松下電器

世界のトランジスタラジオ

ナショナル

PANASONIC
RT-V-111